

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

Table with 6 columns: 選定年度, 令和5年度, 学校コード, F113310102566, 改訂内容, 研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員 (特例枠)
Table with 6 columns: 大学名, 北里大学, 設置区分, 私立, 事業計画名, 「生命科学データサイエンス」教育・研究を加速化し「知のネットワーク形成」プログラム (北里大学)
Table with 6 columns: 学校種, 大学, 都道府県, 東京都

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄）：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の実現等の取組と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画の変更又は追加の取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある際、自己評価で下位2段階の場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通り実施できない場合、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

Main table with 4 columns: 事業計画, 取組状況, 自己評価(理由)とその対応, 年度自己評価. Rows are categorized by year (令和5年度, 令和6年度, 令和7年度, 令和8年度, 令和9年度, ○年度) and include detailed descriptions of educational plans and implementation progress.

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学
 該当無し チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
 該当無し チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
 該当無し チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付けられている大学
 該当無し チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
 該当無し チェック

3. 申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。
 確認を受けている チェック
 対象に該当しない チェック
- ② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
 計画通りに進んでいる チェック
- ③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資質保証の枠組みを活用するなど出口における資質保証にも十分留意することが重要。）
 計画通りに進んでいる チェック
- ④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
 計画通りに進んでいる チェック
- ⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
 計画通りに進んでいる チェック
- ⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）（以下「研究科等の設置等」という。））による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。
 計画通りに進んでいる チェック
- ⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。
 計画通りに進んでいる チェック
- ⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種別分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例校）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種別分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）
 既設の情報系分野に係る研究科等を有する チェック
- ⑨ 機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。
 計画通りに進んでいる チェック
- ⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。
 計画通りに進んでいる チェック
- ⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中目録期間終了時まで他に学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。
 計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない チェック
- ⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画となっていること。
 計画通りに進んでいる チェック
- ⑬ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。
 認定を受けている、又は対象に該当しない チェック
 認定を受ける計画が進んでいる チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

③ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
--------------------	--

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
各研究機関や企業との共同研究をはじめ、そこから派生する企業等との連携を活かし、学部教育におけるインターンシップや、大学院進学後の外部研究を視野に入れ、研究に限らず教育でも連携を進める計画としている。 本学では相模原市との連携事業を推進していることから、データサイエンスを活用した連携(医療分野や災害対策等)についても新たに推進を進める。また、既に本学医学部救急救命医学、相模原市消防局、ソフトバンク株式会社、凸版印刷株式会社と本学部との共同研究により、救命救命における映像伝送システムの開発に着手している。これは、救命隊による救命業務を大病院との映像共有によりスムーズに目撃証人として実施するとともに、現場活動映像をリアルタイムで蓄積し、AI解析による救急業務の効率化や安全化に繋がる新たな知見をもたらすための取組である。また、高度なセキュリティ対策を行い、プライバシー情報を適切に管理することも目標としている。 このように、地域医療や防災、防災等、データサイエンスを活用した地域貢献についても加速度的に計画する。	インターンシップについては、開講は令和7（2025）年度となるが、1年生に予備調査として実際にインターンシップとして行きたい企業等についてアンケート調査を実施し、当該科目責任者を中心に協議を開始した。医療分野や災害対策等へのデータサイエンスの活用に係る研究計画は順調に進んでおり、映像伝送システムの開発を主にに行った。具体的には、スマートフォンを用いた映像通報、救命現場の映像録画、それらデータのクラウド上でのデータベース化を行なうシステムを開発し、倫理計画の策定、映像からの個人情報除去の整備も併せて行った。AI開発では、救急出場記録データを用いた機械学習による救急出動予測のアルゴリズムを開発し、その有効性を確認した。 令和6（2024）年度はクラウド上に蓄積されたデータを用いて、映像からAIを用いて救命現場を解析する学習モデルの開発を行った。以上のように本研究計画は順調に進んでいる。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学において協定を結んでいる高等学校をはじめ、近隣の小・中学校の中で、特に相模原市或いは神奈川県に所在する学校との連携を深める取組を計画する。具体的には、本研究科・学部専任教員及び大学院生を講師に出張講義として、プログラミングや生命データサイエンスに関する講義を年間5校程度を目標として実施する。実際にプログラミングは何かを教えた後に、レクリエーションとしてプログラミングが楽しめること、どのように我々の生活を変えるのかについて講義し、プログラミングの学びをエンカレッジすることを旨とする。初等中等教育段階でのプログラミング教育は徐々に広まりつつはあるが、本学の特色である「生命科学」を含んだ内容は、本学独自の取組みとして高い受容を見込めると考える。また、これらの取組みにより大学院生が教育の実現場における指導経験や自身の研究内容をアウトプットする能力を醸成することができるように、教育現場におけるデータサイエンスの可能性を感じられる機会を創出でき、より高い教育効果を期待できる計画となる。	相模原市における高大接続の取組みとして、県立相模原高等学校の2年生を対象とした課題探究授業にプログラム（未来工学部からは3課題「人工知能でたんばく質をデザイン〜無限に広がる有機性タンパク質の世界〜」他2課題）を提供するとし、令和6（2024）年度実施に向けた準備を開始した。 模擬講義についても関連園内にて数校実施（神奈川県 鎌倉学園）した。	未来工学部の教員がおおむね揃い、また、未来工学研究科博士課程が開設される令和8（2026）年度以降に本格的に実施していく計画とする。 出張講義については、学部の広報はもちろんであるが、まずはデータサイエンスという学問の認知を高めることが重要であると課題認識した。

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
留学生の獲得のため、本学の協定校に働きかけ、特に環境問題に関心が高いと思われるアジアの各校から留学生を招き、未来工学部研究室インターンシップの実施を計画する。海外の学部2、3年生をインターンシップ先として招き、本学の学生との間にデータサイエンスの学びにおいてシナジー効果を生み出す。加えて本制度に参加した学生を対象とした修士課程への推薦入試を設け、継続的な研究活動の実現及び大学院生研究者の確保を目指す計画を推進する。修士後期課程に開講するデータサイエンスの加速期待される分野について社会人入学の枠を設け、企業での本業業務に役立つデータサイエンスについての専門家育成を。広く研究成果を公表する機会を創出に向け国際学会等への積極的な参加を促し、履修についても支援を行う。修士課程と博士後期課程において、女性枠を入学入試制度に設け、女性研究者の比率を高める取組みを行う計画とする。現状、本学部1期生の男女比は7:3であるが、これを大学院では5:5を目指す。また、本学では博士の学生を対象とした女性研究者のための研究・育児両立支援助成金を設けており、女性枠で入学した当該学生については、本制度の積極的な活用を推進し、研究と育児の両立を支援していく。	「未来工学部研究室インターンシップ」については、令和7（2025）年度の計画実施に向け、令和6（2024）年度に兼任するベトナム人の教員と担当レベルで検討を開始した。一方で、本研究科大学院生の海外派遣についても検討を開始した。 また、女性枠入試は令和8年度以降の実施計画であるが、先端技術開発や革新的研究において女性の活躍できる機会が広がっており、さらに、グリーン・デジタル成長戦略での人材育成が急務であることから、この社会的ニーズに応えるため、修士課程の人員増計画（令和8（2026）年度届出予定）に合わせ、女性枠の入試を計画する。	

④ 他の大学（外国大学を含む）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
ライフサイエンス系で既に協定関係にある藤田医科大学、杏林大学などとデータサイエンス科目について単位互換などの制度を充実させる。特に、データサイエンスの考え方がどのように生命科学や医療の現場で役立つのかについて具体的な例を通じて理解してもらうことで、協定関係にある大学でのデータサイエンス教育を加速することを旨とする。また、包括連携協定を結んでいる慶應義塾大学とは情報科学や医学面での教育・研究協力を進める。そのために特任教員などの制度を利用し、研究交流を加速させる。北里のデータサイエンスが十分にカバーできていないVR、AR、MRNについての連携を進めることは、今後の医療データサイエンス研究を考えると重要な点となる。また、データ駆動型の加工技術が今後の未来工学部及び研究科の展開を考える上で重要な分野についても連携を深める予定である。北里大学が協定を結んでいる海外45協定校に働きかけることにより、教育・研究連携を加速させ、既に人的交流が盛んであるローベルト・ボホ研究所やエンバコ大学についても研究交流を進める計画とする。	令和5（2023）年2月に、研究力加速の一環として、Academia Sinica（台湾）でのインターンシップの実施について担当者と合意した（令和6（2024）年度に夏期休暇を利用して大学院生を派遣予定）。また、CSIRO（豪州連邦科学産業研究機構のデータサイエンス部門Data61）との連携（学生派遣の可能性を含め）にいい先方の担当者との検討を開始した。	単位互換制度の充実については、未来工学部データサイエンス学科の完成年度後である令和9（2027）年度に向けて実施できるよう準備を進める。 慶應義塾大学との包括連携協定に基づき、令和6（2024）年度に一部研究室において慶應義塾大学の大学院生を研究生として受け入れ、学位論文指導及び研究交流を進めている。 海外の大学との交流については、他研究機関も視野に入れて引き続き検討を進める。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況

大学名	北里大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（特例枠）
-----	------	------	---------------------------

3-3. 学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,783	1,944																		
		入学者数	人	1,817	1,962																		
	その他の学期	入学定員	人	***	***																		
		入学者数	人	***	***																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,783	1,944	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	1,817	1,962	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.02	1.01	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	取寄せ定員等	取寄せ定員(C)	人	7,811	8,078																		
		編入学定員	人	***	***																		
		在籍者数(D)	人	8,032	8,208																		
		編入学者数	人	***	***																		
		取寄せ定員充足率 (D/C)	倍	1.03	1.02																		

4. 外部資金の状況（全学）

年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		1,352,228	***																	

特記事項

--